

幅広く読み、考えを深める実践

国語 第5学年

小松市立安宅小学校・教諭

1 事例の概要

私が昨年度まで勤務していた小松市立串小学校では「心豊かでたくましく、創造的な未来を拓く児童を育成する」ことを目標に、道徳や国語科の研究に取り組んできた。国語科をすべての学力の基盤であるにとらえ、言葉を育み、心を育むことを大切にしてきた。

中でも、国語科においては、「読むこと」領域を中心とした単元に取り組み、つけさせたい力を明確に示した単元構成や授業構成の研究を行ってきた。

さらに、読書活動を推進し、様々な読書経験によって感性を豊かにしたり、様々な生き方にふれたりすることを大切にしてきた。「図書館の中の学校」を目指し、言葉を育み情緒を育てる本との出会いは、さまざまな感動を子どもたちに与え、学ぶ意欲を高めることに役立った。

ここ数年、私が、国語科の授業づくりをするときに大切にしてきたことが3つある。その3つとは、

- ① ねらいを明確にすること
- ② 言葉に着目し、自分の考えを自分の言葉で表すこと
- ③ 交流によって高めあうこと

である。これらのことを大切にすることで、教師も子どもたちも、その単元でどんな力をつけたいのかをはっきりと意識することができたし、言葉を大切にしたり、ともに学び合ったりすることができたように思う。

A-1 授業づくりで大切にしてきたこと

2 実践内容

(1) 単元の見通し

- ・書かれている事実に基づいて読み、そこに描かれた人々の知恵や生き方に対して自分の考えをもつことができる。(読むこと エ)
- ・本から人の生き方を学ぶことに気づき、ノンフィクション、伝記やドキュメンタリー等人の生き方について描かれた本を読み、自分の読書の世界を広げることができる。(読むこと ア)

(2) 指導上の工夫点

① つけたい力を明確にし、児童に学習の見通しを持たせるための手立て

学習計画を子どもたちと共に立てる際に、心がけているのは、この単元が終わったときに、どんな力がついてほしいのかを、子どもたちと共有しておくことである。そのために、私は、学習計画を単元の最後から立てるようにしている。最後の活動ができるようになるためには、どんな読みをしたらよいかを教師はもちろん、子どもたちも共に考えることで、めあてがより明確になり、学習の見通しがはっきりすると感じている。

② 既習を確認し既習を活かして学習するための手立て

子どもたちの読みの力をあらかじめ確認しておくひとつの手段として、学習アンケートをとった。アンケートをとることで、子どもたちは、自分の学びを振り返ることができたし、自分に足りない力や必要な力を知ることができた。また、「指示語」「接続語」「話題提示文」といった、用語を知るよい機会ともなった。

③ 子どもたちの読書の幅を広げるための手立て

- ・ 徳の資料として、意識して素晴らしい生き方をしている先人(野口健、マハトマ・ガンジー、黒柳徹子、手塚治虫等) を取り上げた。
- ・ 資料で取り上げた先人の生き方について書かれている本を簡単に紹介し、書架に並べた。
- ・ 学校図書館司書によるブックトークをおこない、図書室には伝記やノンフィクション、ドキュメンタリーなどさまざまな分野で活躍している人の生き方について書かれた本がたくさんあることを示した。

B-1 学習アンケート

3 指導の実際

第1次「教材文を読んで、古代の人々の知恵、職人の工夫や努力、心意気を知り、そこから学んだことをキーワードに表すことができる。」

「千年の釘にいどむ」の学習では、内容を丁寧に読んだ後に、学習のまとめとして白鷹さんの生き方から学んだことを、全員でキーワードにまとめてみた。「より良くしようと努力を重ねる」「何度でも挑み続ける」「職人としての意地」などのキーワードがあがった。

第2次「千年の釘にいどむ」に出会ったことで白鷹さんの生き方について学べたことに気づき、先人の生き方について描かれた本を選んで読み、読書の世界を広げることができる。」

子どもたちは、自分たちが本から学んだ生き方をそれぞれがまとめ、最後に「千年の釘にいどむ」での学習をもとに、それぞれが自分の考えや思いをキーワードに表した。

C-1 指導案

C-2 子どもたちの作ったキーワード

C-3 交流の実際

4 成果と課題

(1) 成果

① ねらいを明確にした授業

「つきたい力」を教師も子どもたちも意識することで、子どもたち自身が自分についている力を知り、既習を活かしながら自力で教材に向き合い、考え、表現しようとする意欲が高まった。

② 言葉に着目し、自分の考えを自分の言葉で表す授業

子どもたちの言葉は決して豊かではない。豊かな言葉を育むためにも読書活動との関連はとても大切だと感じた。

③ 交流によって高めあう授業

人に自分の考えや思いを伝えることは、自分の考えや思いを再確認することにつながる。子どもたちは交流を通し、自分の学びを自覚し、自己を評価することができた。

(2) 課題

つきたい力を明確にするためには、先の見通しが必要になる。目の前の子どもたちに、今この教材でどんな力をつけるのかももちろん大切なことだが、「1年間でどんな力をつけるのか」、「その力が6年間のどこに位置づけられているのか」、など6年間を見通した指導の重要性を感じた。

D-1 成果と課題 詳細